

平成26年度 四国横断自動車道 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会
第4回検討会での質問に対する回答について

第4回検討会における傍聴者の方々からのご質問についてお答えします。

○質問－1

◎コアジサシの飛来及び繁殖調査は？

‘14年度、(‘13年(小松海岸で))繁殖行った。河口干潟で。

○クロハラアジサシ、ハシブトアジサシ、アジサシの飛来調査は？

◎シロチドリ(河口干潟での)繁殖行った、調査は？

◎カラシラサギの飛来調査は？

◎マガン3羽の飛来調査は？

◎コクガン1羽の飛来調査は？

◎スグロカモメの飛来調査は？

◆回答－1

環境モニタリング調査は、渡河橋建設による影響監視を目的としており、この目的を達成するための鳥類調査の方法として、特定の種や個体数が少ない種に着目した調査ではなく、吉野川河口域に多く出現する渡り鳥のシギ・チドリ類に着目した調査を行うこととしています。

なお、環境モニタリング調査計画は、委員からのご指導・ご助言を得ながら策定しています。

○質問－2

市民データだけをすいあげるといよりも調査データを公開し、市民意見を(地域知が期待できます)定期的にくき場を設け活用する方が効果高いと思います。

県外の方にもききに行ってくださいののですか？

基礎データをとったり事前調査をするのは、事業者の義務と責任だと思います。

◆回答－2

調査データは、環境部会の資料に予備調査の結果等を添付し公開しています。今後実施する調査結果についても同様に、委員からのご指導、ご助言を得ながら公開していきたいと考えています。

市民意見を定期的に聞く場としては、検討会において一般傍聴者の質問を受付けております。また、橋梁形式検討時の「環境保全対策(原案)に対する意見の募集」、今後実施する「一般の方々の生物観察データの募集等」など、当社のホームページ等を通じて広く県内外の方々からのご意見等を募集しております。

また、環境モニタリング調査の基礎資料を得るための先行事例の収集、予備調査や事前調査等については、事業者として実施しているところです。

○質問－3

「臨機応変」に検討会を設けるとは、これは、どなたが、判断し、招集するのか、問題だと思います。市民からお願いすれば、招集していただけるののですか？市民提案ができるように検討実

現してください。

◆回答－3

検討会規約第7条第1項及び第2項に記載のとおり、検討会は座長、部会は部会長が必要に応じ招集することになっています。

○質問－4

河川協議や、海岸（港湾）に関する管理者との協議はしていないのですか？
いつから具体的にはじまるのですか？

◆回答－4

河川管理者との協議は、本検討会の進捗に応じ、随時行っているところです。

○質問－5

地震に対して

耐震性、塩害等の耐久性、2点は示されていますが巨大津波に対しての上部工への影響、地盤沈下に対する橋脚の沈下等、落橋のシミュレーションが必要だと思います。

今までどこかに示されていますか？検討された結果やデータが公開されているのであれば、WEBアドレスをおしえてください

◆回答－5

巨大地震に対する橋梁への影響検討等は、本年度の橋梁設計で実施中であり、検討の結果は第5回検討会（H27.3頃を予定）にて提示する予定です。

第4回検討会では傍聴者の方々から意見・要望を頂きました。

○意見・要望－1

◎河口干潟の振動調査（騒音も）是非行って下さい。阿波シラサギ大橋では住吉干潟が振動が河口干潟より大の為、大型シギ（ホウロクシギ）や越冬シギ・チドリ（ハマシギ・ダイゼン）の多くは住吉干潟に採餌に飛来しなかった。

◆回答－1

現在計画している騒音・振動調査の位置については、河口干潟に飛来する鳥類に対する影響把握を踏まえ設定しています。（調査地点NVR－1）

なお、環境モニタリング調査計画については、委員からのご指導・助言を得ながら策定しています。

○意見・要望－2

1. 付着生物調査

計画は、北岸BP-1だけのようですが、南岸の堤防水際（潮間帯～潮上帯）には、シギ類など鳥の利用が多くみられることから、南堤調査も必要と思われるので追加していただきたい。

前の環境部会で委員からもそういう提案があったように思います。

◆回答-2

付着生物調査は、橋脚整備による流況変化や上部工の存在による日照変化に伴う堤防付近への付着生物への影響を把握することを目的として計画しています。

ただし、右岸部の橋梁直下周辺は、波当たりの激しい消波ブロックが設置された場所であり、潜水土による作業が困難な状況です。そのため、作業者の安全面に配慮して左岸のみの調査計画としています。

なお、環境部会において、シギ・チドリ類が堤防法面の付着生物を採餌していることに関する指摘がありましたが、鳥類調査（生息状況調査）で採餌行動を観察する計画であり、ご意見の右岸堤防水際（潮間帯～潮上帯）の調査も行う予定です。

○意見・要望-3

鳥の調査回数について

春2回、秋は1回冬1回ということですが、天候を心配しています（近年天候異変多く）。少なくとも、秋2回冬2回必要だと思います。

◆回答-3

鳥類調査の実施時期・実施頻度は、これまで環境部会において、調査時期をシギ・チドリ類の渡りと越冬状況に着目することとし、春の渡りの状況を2回（4月、5月）、秋の渡りの状況を1回（9月）、越冬の状況を1回（1月）の合計4回の調査を実施することとなりました。

実際の調査では、ご意見のとおり悪天候の影響等も考慮し、各調査時期の中で適切な調査日を選定し実施いたします。

○意見・要望-4

事前調査の評価をする時期が、工事開始の直前すぎて、設計や、工事方法に果たして、反映できるのか、とても疑問です。

◆回答-4

現在実施中の橋梁設計は、施工計画検討も含め、年度末の完成を予定しております。施工計画ができ次第、橋梁部会・環境部会に提示し、委員からのご指導、ご助言をいただきながら、必要に応じて施工計画や工事中の環境モニタリング調査計画のブラッシュアップを図っていきたくと考えています。

○意見・要望-5

データ不足のまま、工事をするというのはおそろしい！！

◆回答-5

これまでに環境保全対策の検討、並びに環境モニタリング調査計画の検討に至るまで、周辺事業の先行事例を参考にデータを収集し、また事業者として予備調査を実施してデータを収集して

まいりました。

今後、事前調査を実施するだけでなく、一般の方々が保有している生物観察データを参考にしながら、より良い環境保全にすべく進めてまいります。

○意見・要望－6

プサンの橋 橋脚が1ヶより2つペアの方が、潮流 e t c の影響が少ないのでは

◆回答－6

質問の意図に対し回答できていないかもしれませんが、定性的には橋脚数が少ない方が流況による地形変化への影響は少なくなると考えられます。また、河川内の橋脚形状については河川構造令及び道路橋示方書に基づき検討いたします。
